

## 耳の日に寄せて

琉球大学病院 耳鼻咽喉・頭頸部外科 比嘉 輝之



「耳の日」は耳疾患に対する啓発と難聴者のために役に立ちたいという願いを込めて制定され、全国で様々な「耳の日」関連の行事が行われてきました。沖縄県でも新型コロナ感染の状況を考え中止となった昨年、一昨年をのぞき例年市民公開講座を行い、8月7日の「鼻の日」に関連して行ってきた行事とともに多くの方にご参加いただきました。一方で咽頭がんや喉頭がんの外科治療等の頭頸部外科領域については十分に知られていなかったこともあり令和3年1月に日本耳鼻咽喉科学会が日本耳鼻咽喉頭頸部外科学会に名称を変更して「耳鼻科」でイメージされる耳と鼻だけでなく、のどの腫瘍、嚥下に関する外科的治療を行っていることを一般の方にも知ってもらう活動を開始しました。

特に耳の日がある3月を耳鼻咽喉科月間とした以外に、7月27日が世界頭頸部癌の日であることから7月を頭頸部外科月間としてアピールしてゆくこととなりました。沖縄県地方部会では令和4年3月6日(日)、県立博物館・美術館にて耳鼻咽喉科月間として聞こえと健康、好酸球性副鼻腔炎、頭頸部がん、摂食嚥下について市民公開講座を3年ぶりに予定しています。ご興味がある方がいましたらご案内いただければ幸いです。

ここで耳の日に因み沖縄県での聴覚障害児への取り組みについてご紹介したいと思います。先天性の聴覚障害は出生時の1,000名に1～2名とされています。発見が遅れた場合、耳からの情報に制約があるためコミュニケーションに支障をきたし、言語発達が遅れてしまい、将来社会生活に大きな支障となってしまいます。早期に発見して適切な支援が行われることで、音

声言語発達などへの影響は最小限に抑えられるため、新生児への聴覚検査を実施し適切な療育、支援へつなげることがとても重要です。日本では新生児聴覚検査が平成13年にモデル事業として始まり、厚生労働省発表によると令和元年度の全国の集計を行っている自治体全体での受検率は90.8%となっております。沖縄県では、分娩施設へのアンケート調査で令和元年度の受検率は97.5%でした(対象児11,347人に対して。同年の沖縄県出生数は15,123人)<sup>1)</sup>。現在沖縄県内の全分娩施設では聴覚スクリーニングが実施可能となっています。平成29年アンケート調査時の受検率は84%<sup>2)</sup>でしたので以前と比べると受検率も高くなっています。しかし、わずかながら検査を希望されない保護者もあり、理由の一つとして多くの市町村で検査費用が自己負担となっていることが考えられます。そのため、引き続き保護者へスクリーニング検査の重要性を知ってもらうことや、各機関と協力して公費負担への働きかけが大切だと考えています。検査の結果がrefer(要再検)となった場合には精密聴力検査を受け難聴の有無や程度を診断してゆくこととなります。乳幼児期の聴覚障害の診断確定には時間がかかるため、精密検査を受けるまでの期間に保護者は少なからず不安を抱いています。その後の乳幼児や保護者へのサポート体制が整わない環境で早期発見のためのスクリーニング検査のみを実施し続けるとかえって親子関係を不安定にする可能性があります。またrefer(要再検)となった後には精密検査を円滑に受けてもらい、検査で難聴の診断がつき補聴器装用が言語発達に有利と考えられる際には装用をスムーズに開始していく仕組みが必要となります。

このように難聴の早期発見と引き続き児と保護者への支援には医療、教育、心理的な側面が必要で、そのためには産婦人科、小児科といった医療機関だけではなく療育機関、親の会など患者団体、ろう学校、難聴学級、市町村の担当部署や保健師、発達支援事業などさまざまな専門職との関わりが必要です。

この課題にこたえるべく令和2年に琉球大学病院内に「きこえの支援センター」が開設しました。ここでは円滑に精密検査が受けられるように分娩施設や二次聴力検査機関からの依頼に対して精密聴力検査機関と検査日の調整を行っています。また保護者や保健師などの関係機関からの聴覚スクリーニング検査に関することや聴覚障害や補聴器、人工内耳などの相談に対応して情報提供を行い、保護者が安心して検査が受けられるよう連携を図っています。加えて新生児聴覚スクリーニング検査の状況を把握し途中で必要な検査や聴覚補償を受けていない児が

いないことを目指し、毎年産科医療施設や精密聴力検査機関へ年間検査件数など調査を行い県内の状況を確認しています。最終的に聴覚障害と診断された児の補聴状況や療育の状況についても引き続き確認し必要な支援が行えるよう連携を図っています。

将来にわたり、聴覚障害児とその保護者のため、支援に携わるみなさんとの円滑な連携を図る取り組みが継続してゆければと考えています。

- 1) きこえの支援センターホームページ  
<https://kikoe.skr.u-ryukyu.ac.jp/>



- 2) 沖縄県新生児・乳幼児の聴覚検査と  
きこえの支援のための手引書  
<https://www.pref.okinawa.jp/site/hoken/chiihoken/boshi/shinsukukikan.html>



**耳鼻咽喉科月間 市民公開講座** 入場無料

**“耳・鼻・のど”の病気と治療を学ぶ**

---

日時： **2020年3月6日(日) 13:00～16:00**

場所： **沖縄県立博物館・美術館**  
那覇市おもろまち3丁目1番1号 TEL/098-941-8200 先着20名

内容： **みみ・はな・のど・くちの相談会 13:00～**  
**講演会 14:00～15:20 【開場 13:45】**  
情報保障：手話通訳 要約筆記 磁気テープ  
**補聴器展示 13:00～15:45**

新型コロナウイルス感染予防と参加者の安全確保のため**先着50名**といたします。  
当日はマスク着用のうえ、会場内での飲食や会話はお控えください。  
今後の沖縄県コロナ警戒レベルによっては中止となる場合もございます。

---

プログラム

1. 治りにくい副鼻腔炎について  
山下 懐 (こころ耳鼻咽喉科) …… **14:05～14:25**
2. 健康長寿は耳から～聞こえと健康の関係～  
比嘉 輝之 (琉球大学病院) …… **14:25～14:45**
3. 口とのどにできるがんについて～早期発見・早期治療が大切！～  
金城 秀俊 (琉球大学病院) …… **14:45～15:05**
4. いつまでも楽しく食べるため～摂食・嚥下(飲みこみ)について学ぼう～  
喜瀬 乗基 (琉球大学病院) …… **15:05～15:25**

~~~~~ Q & A (10分) ~~~~~

主催：一般社団法人日本耳鼻咽喉科学会沖縄県地方部会 (琉球大学医学部 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座内)  
〒903-0125 西原町字上原207番地 Tel: 098-895-1183 Fax: 098-895-1428 HP: <http://www.ent-ryukyu.jp>